

「キラリ！三瓶☆夏☆キャンプ！！」

～やればできる！仲間と挑戦！！大自然で新たな自分を発見する旅～

1 趣 旨

- ・仲間との集団生活を通して、仲間の大切さや規範意識、社会性を養う。 **【仲間との協力】**
- ・様々な活動に挑戦し、困難に自ら立ち向かおうとする力を養う。 **【チャレンジ】**
- ・三瓶とその周辺地域にある歴史や自然に触れる体験活動を通して、自然保護意識を高める。 **【たくさんの歴史・自然に触れる】**

2 事業の概要

- (1) 期 日：令和3年8月11日（水）～15日（日）【4泊5日】
- (2) 参加者：小学生15名（5年生7名、6年生8名） ※1班5人×3班編成
法人ボランティア4名、ボランティアスタッフ1名
- (3) 主な日程
令和3年8月10日（火）
前日準備（道具点検・準備）
打合せ（日程確認・活動内容の確認、緊急時の対応の確認、活動範囲の安全確認 等）

	8月11日（水）	8月12日（木）	8月13日（金）	
6:00		起床	起床	
7:00		朝食（野外炊飯）	朝食（パン弁当）	
8:00		バス移動	バス移動	
9:00		2 nd charm いざ！銀の道へ！ ～やなしお道を歩こう！～ 【約10kmの道を歩く】 ・やなしお道散策 昼食（弁当）	3 rd charm 銀の道の秘密を探ろう！ ・石見銀山ウォークラリー 昼食（弁当）	
10:00	受付・開会式			バス移動
11:00	アイスブレイク			交流の家活動プログラム
12:00	昼食（ビュッフェ）			交流の家活動プログラム（キンボール）
13:00	1 st charm ～生活の拠点を作ろう～ ・テント設営 ・日程確認 ・活動目標決め（個人、班） ・丁銀キーホルダー作り	バス移動	交流の家活動プログラム (スポーツ雪合戦)	
14:00		交流の家活動プログラム（キンボール）	夕食（野外炊飯）	
15:00		夕食（野外炊飯）	夕食（野外炊飯）	
16:00	夕食（野外炊飯）	入浴	入浴	
17:00	夕食（野外炊飯）	ふりかえり	ふりかえり	
18:00	夕食（野外炊飯）	就寝（セミナーハウス）	就寝（セミナーハウス）	
19:00				
20:00	入浴・ふりかえり			
21:00	就寝（テント泊）			

	8月14日（土）	8月15日（日）
6:00	起床	起床
7:00	朝食（野外炊飯）	朝食（パン弁当）
8:00		テント撤収
9:00	Final charm 仲間と力を合わせ三瓶山を周回しよう！ ・三瓶山周回 交流の家～女夫松登山口 昼食（弁当） ・ボルダリング	道具の片づけ
10:00		ふりかえり
11:00		昼食（ビュッフェ）
12:00		～旅を終えて～ スライドショー上映
13:00	閉会式・解散	
14:00	夕食（野外炊飯）	
15:00	夕食（野外炊飯）	
16:00	夕食（野外炊飯）	
17:00	夕食（野外炊飯）	
18:00	入浴（交流の家）	
19:00	ふりかえり	
20:00	就寝（セミナーハウス）	
21:00	就寝（セミナーハウス）	

3 事業の内容

(1) 事業の特色

仲間と共に、野外炊飯、テント泊、登山などの自然体験活動や、三瓶山・石見銀山遺跡などの歴史や文化に触れる4泊5日の集団生活を行うことで、目標に向かって挑戦し、困難を自分たちで解決する力を養うことを目指した。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

- ・昨年度の成果として、『拠点型キャンプ』にすることで、参加者・スタッフ共に体力的な余裕が生まれ、それぞれの活動に集中・熱中することができた。」とあったことから、本年度も昨年度同様、国立三瓶青少年交流の家を生活の拠点とする拠点型キャンプとした。(一昨年までは『移動型キャンプ』であった。)
- ・本事業の趣旨を達成するため、参加者には「仲間との協力」「チャレンジ」「たくさんの歴史・自然に触れる」の3つのキーワードを意識させ、事業運営を行った。

【仲間との協力】

活動の中に班単位での活動を多く取り入れ、「仲間との協力」を意識できるようにした。

【チャレンジ】

テント泊や野外炊飯など、普段体験できない内容を取り入れ、初めてのことに進んで挑戦しようとする環境づくりを行った。また、石見銀山街道散策、ウォークラリー、三瓶山周回では、目標に向かって挑戦し、困難を自分たちで解決できるような活動内容とした。

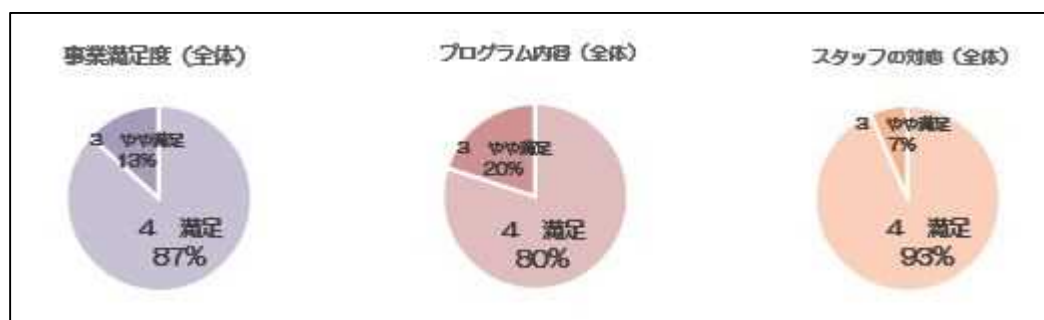
【たくさんの歴史・自然に触れる】

地元大田市にある世界遺産石見銀山の歴史についてウォークラリーを行いながら学ぶとともに、石見銀山街道も実際に歩くなど、体験を通して「歴史・自然」について学べるようにした。

- ・令和元年度の課題として、IKRアンケートに関して、「キャンプの前後では、『心理社会的能力』、『社会的能力』に有意差が見られ、『生きる力』の育成につながったといえる。しかしながら、1ヶ月後の追跡調査においては、全体的には、事前調査からのわずかなポイント増加はあったが、有意なポイント増加は見られなかった。」とある。本事業が終わった後も継続して家庭や学校で学んだことを生かせるような働きかけを、活動終了後や1日の振り返り時に行うようにした。

4 成果と課題

≪実施後アンケート結果(全体)≫ ※男子7名 女子8名 計15名

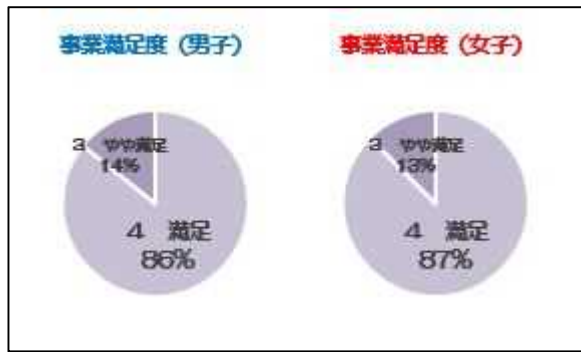


グラフ1：全体アンケート結果(左：事業満足度 中：プログラム内容 右：スタッフの対応) 一覧

- ・事業満足度(全体)、プログラム内容(全体)、スタッフの対応(全体)のどれも、「4 満足」と答えた参加者の割合が80%を超えている(グラフ1参照)。

《実施後アンケート結果（男女別）》

①事業満足度評価



グラフ 2：男女別事業満足度評価（左：男子 右：女子）

②プログラム内容評価



グラフ 3：男女別プログラム内容評価（左：男子 右：女子）

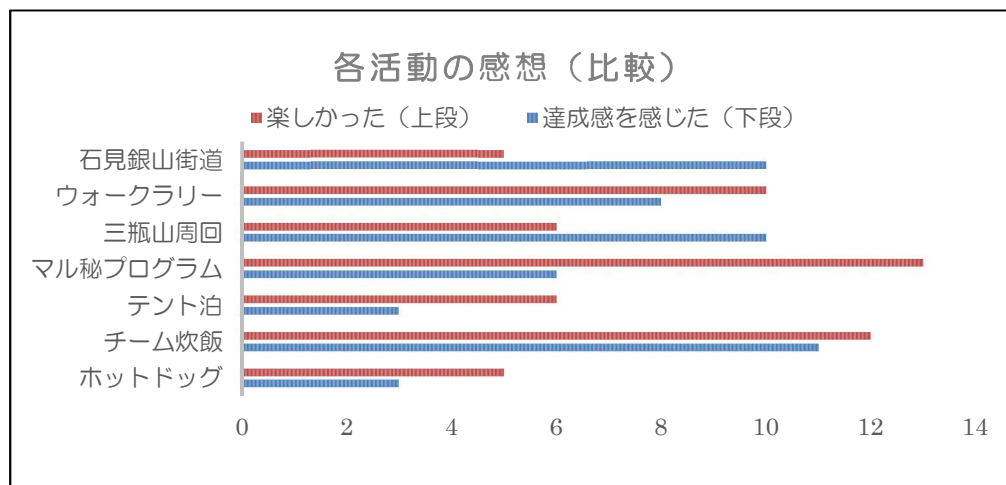
③スタッフの対応



グラフ 4：男女別スタッフの対応評価（左：男子 右：女子）

- ・「①事業満足度」「③スタッフの対応」については、男女差はあまり見られず、「4 満足」と回答した参加者の割合が、80%を超えている（グラフ 2、4 参照）。
- ・「②プログラム内容」については、男子は「4 満足」と全員が回答したのに対して、女子は「3 やや満足」と回答した参加者が38%であった（グラフ 3 参照）。「3 やや満足」と回答した参加者の中で、「体力を使うものが多く、工作或勉強をもう少し多くしたかった」という意見もあった。

《実施後アンケート結果（活動別）》



グラフ 5：楽しかったプログラムと達成感を感じたプログラムの比較

- ・グラフ5より、「石見銀山街道」「ウォークラリー」「三瓶山周回」「チーム炊飯」は「達成感を感じた」と回答した参加者が他の項目に比べて多かった。参加者が達成感を感じる活動は、普段の生活の中では体験できない活動が多い傾向にある。また、マル秘プログラム（キンボール、スポーツ雪合戦）は、「楽しかった」と回答した参加者は13人いたが、「達成感を感じた」と回答した参加者は6人であった。グラフ5のアンケート結果をもとに、次年度以降プログラム立案を行う際には、参加者が楽しいと感じるプログラムと達成感を感じるプログラムのバランスを考慮しながら立案・分析していき、事業全体をより効果のあるものに改善していく必要がある。
- ・テント泊について、「楽しかった」と回答した参加者は6人、「達成感を感じた」と回答した参加者は3人であった。これは、悪天候のため、4泊予定していたテント泊が1泊しかできなかったことにあると考えられる。参加者からは、「もっとテント泊がしたかった」「テントに泊まることができなくて残念でした」とテント泊を望む声が多かった。

《小学生アンケート記述より》

○実施後アンケートより

- ・最初は仲良くなれたり楽しく話すことができるか不安だったけど、最終日には仲良く楽しく過ごせるようになって良かったです。けんかなどがあったけど、それがあったことで相手のことを考えて行動できるようになりました。
- ・自分一人だけで達成するのではなく、全体で協力したり支え合ったりしていろいろなことができたので良かったです。
- ・これから学校でもみんなと仲良くしていきたいと思いました。野外炊飯でもみんなと協力してできたので、学校や家など他のところでも協力することを大切にしていきたいです。
- ・このキャンプに参加して、できるようになったことや変わったことがたくさんありました。テントを立てたり、野外炊飯をして、初めてのことが出来るようになり、自分から進んでいろいろなことに挑戦できました。

○実施1カ月後のアンケートより

- ・私は、だれにでも積極的に声かけられるようになりました。また、学校がはじまっても早寝早起きできて規則正しい2学期がスタートできたことが良かったです。
- ・前までは、歩くことが嫌いで、散策や三瓶山周回と聞いたらすぐにあきらめてしまってたけど、あきらめずにできるようになりました。
- ・家族にも優しくできるようになったし、自分から進んで何にでも取り組めるようになりました。

《保護者アンケートの記述》

○本事業参加理由より

- ・本人が決めて応募したいと言ったから。もともと、自分から話しかけたり、何かを率先して行動したりできず、もじもじするところがあるので、6年生になって少し変わりたいという気持ちの表れなのかな？と思い、参加を承諾しました。
- ・親に頼らず、自分で考えて行動し、自分で問題解決する、という経験をさせたかったから。

○実施1カ月後のアンケートより

- ・Tシャツに寄せ書きのメッセージが記されたのを読んで、良い時間を過ごせて、必要とされて感謝されてすごくうれしかったという思いを強く感じました。2学期になり、今は体育会の実行委員として、今までよりも積極的にミーティングをしたりみんなの意見をもとにとりまとめたりしてるようで、うれしく思っています。
- ・親、兄妹の大切さや、何気ない日常がすごく幸せなんだね、と言ってくれました。日数的にも少し長いかな？とも思いましたが、色んなことを考え、気付きを発見するのにちょうどいい日数だったようです。また、キャンプ後、料理や片づけを率先して手伝ってくれるようになりました。

《成 果》

- ・本事業の趣旨を達成するために、【仲間との協力】、【チャレンジ】、【たくさんの歴史・自然に触れる】の3つのキーワードを子供たちとも共有をして事業運営を行った。子供たちの感想からもこの3つのキーワードに関することが多かったことから、一貫性のある事業運営を行うことができた。
- ・中世から近世にかけて銀を運んでいた「石見銀山街道」について知り、実際に歩いた後、銀を掘り出していた「間歩」について学んだ。日程につながりを持たせ、体験を通して学習したことで、参加者の学びがより深いものとなった。
- ・生活の拠点を移動しながら変更する「移動型キャンプ」から三瓶青少年交流の家を生活の拠点とする「拠点型キャンプ」に変更して2年目となる。本年度は、連日の大雨等で当初予定していた通りの活動ができなかった。しかし、「拠点型キャンプ」にしたことにより、予定変更にも対応でき、柔軟な事業運営につながった。

《課 題》

- ・長期キャンプを実施する上では、気象、活動場所、参加者の体調等、常にリスクを意識し、危機管理を徹底しなければならない。今年度のように、新型コロナウイルス感染症対策に関する国や県、または市町村の実態や天候の変化、緊急時の対応について、適切に対応できるように、今年度以上に職員、ボランティアの意識の向上と、関係機関との連携をより一層図っていく必要がある。
- ・「三瓶山登山」をメインの活動として予定していたが、本番では悪天候のため、「三瓶山登山」は「三瓶山周回」に変更となった。「三瓶山登山」は本事業におけるメインプログラムであり、それに代わる雨天時プログラムの考案、企画立案の必要性を感じた。



写真1：班で協力してテントを組み建てる様子



写真2：石見銀山街道散策（やなしお道）



写真2：石見銀山ウォークラリー



写真4：三瓶山周回スタート時の様子



写真5：野外炊飯の様子



写真6：ふりかえりの様子

(担当：企画指導専門職付 福田 将大)